

## 学会参加レポート

### 14<sup>th</sup> ISN advanced school of neurochemistry に参加して

山崎 礼二

(東京薬科大学薬学部機能形態学教室、Georgetown University Department of Biology)

私は2017年の8月16～20日にフランスで開催されました14<sup>th</sup> ISN advanced school of neurochemistry に参加しました。今回スクールの参加レポートを執筆する機会を頂きましたので、ここにご報告いたします。私がスクールに応募したのは今回が2回目でした。前は残念ながら落選してしまいましたが、今回は幸運にもスクールに参加することができ、光栄に思います。スクールへの参加が決まった後、偶然にも以前から面識のあった友人（東京慈恵会医科大学、小川優樹くん）がスクールに参加を知り、連絡を取り合って一緒に入国しました。集合場所はリュクサンブール公園の入り口で、集合時間が近づくにつれて英語に自信がない私はとても不安を感じたことを覚えています。今回のスクールはアジア系研究者の参加を中心に、様々な国から計45人の若手研究者が選抜されていました。スクール会場にはバスで移動し、宿舎ですぐにディナーとなり、異国の研究者とワインを飲みながら楽しく交流することができました。翌日の朝にはスクール生全員が3分間のプレゼンテーションを行いました。3分間の中で自己紹介スライドを取り入れるなど、ユニークな発表をするスクール生もいました。自身の発表時は大変緊張しましたが和やかなムードだったため、落ち着いて発表することができたと思います。その後、先生方の講義が続き、かなりハードなスケジュールでしたが、最新の研究トピックなどとても勉強になる話を聞くことができました。また、昼食やコーヒープレイクでは同世代の研究者と各国の研究事情やキャリアについて話したり、スクール中のエクサカーションではバスに乗ってChateaux Vaux-le-Vicomteというお城まで行きました。その雰囲気はまるで修学旅行のようで、とても楽しかったことを覚えています。その後、スクール生によるポスター発表があり、講師の先生やスクール生と有意義なディスカッションができました。そして最終日の夜にはパーティーがあり、お酒を飲みながら夜中まで踊り通したことはとても良い思い出になりました。

今回のスクールを通して海外の研究者と友人になれただけでなく、普段の研究生活にはない刺激的な5日間を過ごすことができました。そして、この経験が今後の研究人生に多大な影響を与えてくれたと感じています。もし次回のスクール参加を考えている若手研究者がいらっしゃいましたら、是非積極的にアプラインすることをお勧めしたいと思います。最後になりますが、今回執筆する機会を与えてくださいました国際対応委員会の先生方、常日頃からお指導ご鞭撻を承っております日本神経化学会の先生方にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。



